

## 大学/各学科の教育目標とカリキュラムの特色

### キャリア形成学部 キャリア形成学科

#### 1 アドミッションポリシー

本学科が求める学生は、4年間継続する意志を持ち、個人およびチームで学んで目標を一つずつ達成して成功体験を積み上げることで、自律的に成長する意欲を持つ女性である。次は、本学科が求める学生像である。

1. 自己をマネジメントし、基礎学力を向上させたい人
2. 社会人に必要なビジネス素養を修得したい人
3. 日本語、英語、情報などの高度なスキルを修得したい人
4. プロジェクト推進力を培って実践活用したい人
5. 地域に根差した活動で社会貢献したい人

#### 2 カリキュラムポリシー

本学科の教育達成目標は、マネジメント力の修得であり、セルフマネジメント力（個人で自律的学習する力）とチームマネジメント力（組織で協働・貢献する力）に分かれる。

セルフマネジメント力の修得に向け、基礎・教養科目、および専門科目の「基礎」の科目群を配置する。また、チームマネジメント力の修得に向け、専門科目の「応用」「専門関連科目」の科目群を配置する。

##### 2.1 教育課程の概要

###### (1) 基礎・教養科目

この科目区分は、心の教育、初年次導入教育、基本的能力（コミュニケーション、英語、ICT、健康）を習得する教育、キャリア教育、幅広い教養を培う教育、の科目群で構成される。

###### (2) 専門科目

この科目区分は、さらに「基礎」「応用」「専門関連科目」に区分される。「基礎」は日本語、英語、ICTの3つの科目群で、「応用」はゼミ、プロジェクト、マネジメント、調査・分析、ビジネス、地域社会の科目群で構成される。

##### 2.2 教育課程の特色

###### (1) 高度なスキルの修得

日本語、英語、情報、コミュニケーションのスキルの修得に向け、基礎・教養科目で基礎レベルの科目群、専門科目の「基礎」で高度レベルの科目群を配置する。

## (2) アクティブ・ラーニングによる自律的学習の修得

4年間の学習継続と自律的学習の力の修得に向け、全専門科目のうち半数以上の科目で、学生が調べて考えた内容を口頭発表するアクティブ・ラーニング形式で授業運営する。

## (3) チームマネジメント力の修得

多様な科目で修得した知識・スキルを活用して定着させ、チームで創造する力の修得に向け、プロジェクト科目を3年間必修で配置する。

## 3 ディプロマポリシー

以下の力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位授与する。

### (1) 知識・理解

- ①経営、マーケティングなどのビジネスの基礎知識を理解している。
- ②ビジネス社会の関連性を理解し、社会情勢の変化を把握し対応できる。
- ③地域に関する文化やくらしなどの知識を身につけ、地域を幅広い視野で捉え、地域の課題を発見できる。

### (2) 汎用的能力

- ①相手の話を理解し、自己の意見を的確に表現し、日本語力・外国語力（英語）を活かして議論や情報発信できる。
- ②コンピュータを活用して拡散する情報を収集し、必要な情報をまとめ、収集した情報を調査分析し、課題を発見できる。
- ③基礎的な計算力を身につけ、数的思考で問題発見・解決に取り組める。
- ④データ収集法を理解し、データ収集・分析し、その結果から現状把握や問題発見できる。

### (3) 態度・志向性

- ①建学の精神「真実心」を理解し、学びや生活の中で実践できる。
- ②地域の住民としての人間性・市民性を涵養し、学びや生活の中で実践できる。
- ③幅広い視野を身につけ、多様な価値観を理解して学びを深められる。

### (4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ①発見した課題を、論理的思考により課題解決プロセスをデザインできる。
- ②調査分析結果に基づいて、新たな価値を創造・企画できる。
- ③プロジェクトマネジメントの基礎知識を修得し、課題解決プロセスをチーム作業で達成するために、自分と周囲の人との関係を把握して自分の役割を果たすことができる。
- ④個人・チームで必要な作業を自律的に判断して取り組み、作業効率が高くなる計画を立てて実践できる。

# 健康科学部 健康栄養学科 管理栄養士専攻

## 1 アドミッションポリシー

健康栄養学科 管理栄養士専攻では、人の健康の保持や増進を考え、栄養管理、疾病の予防、健康づくりの支援に必要な高度な知識と技術を併せ持った社会に貢献できる人材（管理栄養士）を養成することを目標としている。この目標を達成するために、栄養士及び管理栄養士免許取得に意欲のある学生はもとより、人の健康の保持や増進に関して勉学意欲を有し、人と豊かなコミュニケーションを築くことができる人を求める。また、入学者の選抜においては、本専攻で学ぶために必要な化学や生物学を中心に基本的な学力を評価する。

## 2 カリキュラムポリシー

### 2.1 教育課程の概要

本専攻の教育課程は、基礎・教養科目、専門科目、関連科目、及び自由科目からなる。

#### (1) 基礎・教養科目

この科目区分は主に「初年次教育」の役割を担い、こころの教育、基本的能力を養成する教育、学習方法の修得を目的とする教育、心身の健康の維持・増進についての教育、及び キャリア教育の基礎で構成されている。

#### (2) 専門科目

専門科目は管理栄養士養成施設のカリキュラムに準拠して体系化されており、1年次は主に専門科目への導入を、2～4年次は管理栄養士に必要とされる知識、技術、態度及び考え方が段階的に学べるよう配慮されている。

- ①「基礎」…1年次の必修であり、基礎学力の向上と専門科目への導入に関する科目を配置している。
- ②「専門基礎分野」…社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康の領域に分かれており、管理栄養士が有すべき多様な専門能力の基本となる知識や技術を学ぶ科目を配置している。
- ③「専門分野」…基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論の領域に分かれており、管理栄養士に必要とされる知識、技術、態度及び考え方を学ぶ科目を配置している。また、専門分野を横断して知識・技術を統合する総合演習、管理栄養士の実践活動を通して課題発見・解決能力を養う臨地実習(学外実習)を配置している。4年次には専門領域への理解を深めることを目的に卒業研究を配置している。

#### (3) 関連科目

関連科目は、学生の多様な興味に応え、かつ関連の資格取得にも応えられるよう食品学、栄養学、健康科学に関連する科目から構成されている。

#### (4) 自由科目

自由科目は、栄養教諭免許取得を主とした構成となっている。

## 2.2 教育課程の特色

- ① 「基礎」区分では、高大接続教育として基礎学力を養う科目、学部共通の健康教育への導入科目を設けている。
- ② 「専門科目」区分では、栄養士及び管理栄養士の専門性の基礎となる専門基礎分野と、高度で専門的な知識、技術、態度及び考え方を修得するための専門分野を段階的に学習できるように構成している。
- ③ 関連科目として、食品学、栄養学、健康科学（医療、運動指導）の領域に関わる実学的科目を幅広く配置し、調和のとれた健康教育体系の構築をめざしている。

## 3 ディプロマポリシー

食と健康との関わりを考え、栄養管理、疾病の予防、健康づくりの指導者として誇りと責任を持って社会に貢献する管理栄養士・栄養士を育成することを本専攻の教育目標とする。これを、次の具体的な目標を設定して達成する。

### (1) 知識・理解

- ① 管理栄養士が有すべき多様な専門能力の基本となる知識や技術を身につける。  
(社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康にかかわる知識や技術を修得している。)
- ② 管理栄養士に必要とされる知識、技術、態度及び考え方を身につける。  
(基礎及び応用栄養、栄養教育、臨床栄養、公衆栄養、給食経営管理にかかわる知識や技術を修得し、管理栄養士の態度や考え方を理解している。)

### (2) 汎用的能力

- ① チーム医療、患者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を身につける。  
(コミュニケーション・スキルを修得しているとともに、チームワーク、リーダーシップをもって行動することができる。)
- ② 的確な情報の収集、分析と活用及び論理的な思考により、問題を発見し、解決する力を身につけている。

### (3) 態度・志向性

- ① 倫理観、社会問題の認識、人や自然科学への興味や理解を深め、豊かな人間性を育む。
- ② 社会の一員としての意識及び生涯学習力を育む。
- ③ 自己の健康維持・増進の大切さを理解し、その方法についての知識を修得している。

### (4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ① 保健・医療・福祉・介護システムの中で、健康の保持・増進のために栄養関連サービスのマネジメントを的確に行う能力を身につける。
- ② 健康科学に関わる幅広い知識や技能を学び、創造的な思考力を培う。

# 健康科学部 健康栄養学科 健康スポーツ栄養専攻

## 1 アドミッションポリシー

健康栄養学科 健康スポーツ栄養専攻では、人の健康の維持や増進を考え、疾病の予防、健康づくりの支援に必要となる運動（スポーツ）指導、栄養・食生活指導を行うことができる人材を養成することを目標としている。この目標を達成するために、栄養士免許や健康運動実践指導者の資格取得に意欲のある学生はもとより、健康の維持や増進に関して勉学意欲を有し、人と豊かなコミュニケーションを築くことができる学生を積極的に受け入れる。また、入学者の選抜においては、本専攻で学ぶために必要な化学や生物学を中心に基本的な学力を評価する。

## 2 カリキュラムポリシー

### 2.1 教育課程の概要

本専攻の教育課程は、基礎・教養科目、専門科目、関連科目、及び自由科目からなる。

#### (1) 基礎・教養科目

この科目区分は主に「初年次教育」の役割を担い、こころの教育、基本的能力を養成する教育、学習方法の修得を目的とする教育、心身の健康の維持・増進についての教育、及びキャリア教育の基礎で構成されている。

#### (2) 専門科目

専門科目は栄養士養成施設のカリキュラムに準拠して体系化されており、1年次は主に専門科目への導入を、2～4年次は栄養士に必要とされる知識、技術、態度及び考え方が段階的に学べるよう配慮されている。あわせて、健康運動実践指導者やフードスペシャリストなどの資格取得に必要な科目を配置している。

- ① 「基礎」…1年次の必修であり、基礎学力の向上と専門科目への導入に関する科目を配置している。
- ② 「専門分野」…社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営の領域では、栄養士が有すべき多様な知識や技術を学ぶ科目を配置している。また、スポーツと健康、運動・スポーツ指導、スポーツと栄養の領域では、健康を維持・増進するための運動（スポーツ）の役割と指導技術、スポーツ栄養学について学ぶ科目を配置している。4年次には、栄養士の実践活動を通して課題発見・解決能力を養う臨地実習（学外実習）、専門領域への理解を深めることを目的に卒業研究を配置している。

#### (3) 関連科目

関連科目は、学生の多様な興味に応え、かつ関連の資格取得にも応えられるようフードビジネス、健康科学、レクリエーションに関連する科目から構成されている。

#### (4) 自由科目

自由科目は、栄養教諭免許取得を主とした構成となっている。

## 2.2 教育課程の特色

- ① 「基礎」区分では、高大接続教育として基礎学力を養う科目、学部共通の健康教育への導入科目を設けている。
- ② 「専門科目」区分では、栄養士が有すべき多様な知識や技術を段階的に学習できるように科目が構成されている。あわせて、健康を維持・増進するための運動（スポーツ）の役割、運動指導技術、スポーツ栄養学について学び、健康運動実践指導者の資格取得を可能にするよう科目が構成されている。
- ③ 関連科目として、フードビジネス、健康科学、レクリエーションの領域に関わる実学的科目を幅広く配置し、健康教育の調和をめざすと同時に関連の資格取得を可能にしている。また、地域活動への参加・貢献をめざす科目も配置されている。

## 3 ディプロマポリシー

人の健康の維持や増進を考え、疾病の予防、健康づくりの支援に必要となる運動（スポーツ）指導、栄養・食生活指導を行うことができる栄養士を育成することを本専攻の教育目標とする。これを、次の具体的な目標を設定して達成する。

### (1) 知識・理解

- ① 栄養士が有すべき多様な知識、技術、態度及び考え方を身につける。  
（社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営にかかわる知識や技術を修得し、栄養士の態度や考え方を理解している。）
- ② 健康を維持・増進するための運動（スポーツ）の役割・指導技術を身につける。  
（スポーツと健康、運動・スポーツ指導、スポーツと栄養にかかわる知識や技術を修得し、運動指導者の態度や考え方を理解している。）

### (2) 汎用的能力

- ① 指導者として対象者とのコミュニケーションを円滑に進める能力を身につける。  
（コミュニケーション・スキルを修得しているとともに、チームワーク、リーダーシップをもって行動することができる。）
- ② 的確な情報の収集、分析と活用及び論理的な思考により、問題を発見し、解決する力を身につけている。

### (3) 態度・志向性

- ① 倫理観、社会問題の認識、人や自然科学への興味や理解を深め、豊かな人間性を育む。
- ② 社会の一員としての意識及び生涯学習力を育む。
- ③ 自己の健康維持・増進の大切さを理解し、その方法についての知識を修得している。

### (4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ① 栄養・食生活指導および運動（スポーツ）指導を通して、健康の維持・増進のために地域社会に貢献できる力を身につける。
- ② 健康科学に関わる幅広い知識や技能を学び、創造的な思考力を培う。

## 健康科学部 看護学科

### 1 アドミッションポリシー

看護学科では、仏教的慈悲の精神を持って「生老病死」と向き合いながら生きていくことの意義について学び、他者と共生できる豊かな心を涵養することを基軸としている。その上で、看護に関する高度な知識と技術による確かな看護実践者として、また、包括的ケアサービスの提供者としての役割と責任を果たし得る能力を養うことを目標としている。入学に際して、「仏教の精神性と看護実践能力を身につけたい」という高い志を持ち、学ぶ姿勢が真摯な態度の入学者を受け入れる。

### 2 カリキュラムポリシー

#### 2.1 教育課程の概要

本学科の教育課程は、基礎・教養科目、専門基礎、専門科目、専門看護（助産師課程）、自由科目（教職科目）から構成されており、教育目標に準拠した看護職として修得すべき能力を得るよう体系化されている。

##### (1) 基礎・教養科目

基礎・教養科目区分では、仏教精神に基づいた人間としての基礎的な力を涵養するとともに、生活者としての倫理観および生活者である人間理解などに努める。そのため、仏教精神とともに学士力の養成を目指し、論理的思考力、創造的能力、生涯学習能力などを涵養するキャリア教育の基礎科目で構成している。

##### (2) 専門基礎科目

この科目区分では、「人間のからだところ」と「人間と社会」とに再区分し、看護専門分野として習得すべきトータルとしての人間の理解のための科目を、1年次から2年次で修得できるよう配置している。

「人間のからだところ」では、人間のからだの構造や機能および疾患の成り立ちと回復過程に加え、人間のこころについての基礎知識の理解を目指し、看護職としてのこころのあり方についても考察を深めていく。

「人間と社会」では、生活者としての健康な暮らしについて、個人および集団の視点を踏まえて、統合的に人間を捉えられることを目指す。

##### (3) 専門科目

この科目区分では、「看護の基盤」、「看護の展開」、「看護の実践」、「看護の発展」の4つに再区分した。「看護の基盤」、「看護の展開」では、看護とは何かという導入から各看護分野のコアとなる基本的知識・技術を修得する科目を配置している。これらの看護学習の過程において知識・技術の統合を図るべく、講義と演習は3年次の前期までに段階的に配置し、3年次後期から始まる看護実践（臨地実習）へのスムーズな連動を目指す。「看護の実践」では、臨地実習施設において人々の健康問題のニーズに適正かつ迅速に対応できる基礎的能力を養うとともに、包括的ヘルスケアシステムを担い、看護職としての役割分担と連携の在り方や、地域に暮らす人々との共生の意味について考

察できることを目指している。「看護の発展」では、大学での学びの手法や 4 年間を通し看護学を学年進行にあわせてよりきめ細かく学習できる科目、看護学を一通り学習した上でさらに看護師としての幅を広げるための科目を配置し、将来の看護師像を幅広く描いていけるよう構成した。

#### **(4) 専門看護**

この科目区分は、助産師国家試験資格取得コースとして位置づけ、編入生を含む学内選抜者を対象に 3 年次から科目を配置している。今、求められている助産師の自律と責任範囲を果たせる基礎能力を養うための科目で構成している。

#### **(5) 自由科目（教職課程）**

養護教諭（一種）免許状の取得に向けて、「教職に関する」科目を修得し、複雑化した社会背景による学童期からのメンタルヘルスに対応するとともに、身体的な健康レベルのケア及び予防に関する健康教育が学べる科目を配置している。

### **2.2 教育課程の特色**

- (1)** 仏教精神に基づいた看護職の養成を行うため、本学の校訓である「真実心」への理解や仏教看護の学習により、人間の命の尊厳への感性を養うとともに人格形成や人間成熟を涵養し、看護実践に活かす。
- (2)** 学士力を身につけ社会人としての確かな基礎能力を有する看護職を目指す。
- (3)** 保健、医療、福祉の現場で必要とされる看護実践能力を習得することができる。
  - ① 地域における包括的ヘルスケアサービスの提供者の役割を理解する。
  - ② 国内外の保健・医療福祉環境に対応できる感性を養う。
  - ③ 健康栄養学科との連携（管理栄養士との協働）によって、創造的な保健・医療サービスを構築することが出来る。

### **3 ディプロマポリシー**

仏教精神により他者と共生できる精神性を養うとともに、地域における包括的ヘルスケアサービスの提供者としての専門性と責任能力を有する看護職を養成することを教育目標とする。

#### **(1) 知識・理解**

- ① 看護職として看護学に基づいた知識・技術を段階的に学び、系統的に理解する。
- ② 看護職として必要な看護学の隣接学問に関する知識を学び、統合的に理解する。

#### **(2) 汎用的能力**

- ① 対象者とその背景の情報を分析し、個別・集団の問題解決を論理的に行うことができる。
- ② 看護的手法により看護知識・技術を再統合し、対象者を主体とした看護実践ができる。

#### **(3) 態度・志向性**

- ① 仏教精神により養われた倫理観、死生観に基づく看護職としての態度を形成することができる。
- ② 「真実心=思いやりの心」によって、看護職として看護を受ける者との共生のできる能力を養う。
- ③ 社会人として必要なコミュニケーション能力や創造的思考力、問題発見解決力などの基礎的



能力を養う。

④自己の健康維持・増進の大切さを理解し、その方法についての知識を修得している。

#### **(4) 統合的な学習経験と創造的思考力**

①地域における包括的ケアシステムを理解し、看護者の役割を果たすことができる。

②健康栄養学科との協働による創造的な健康支援を構築することができる。

## 健康科学部 心理学科

### 1 アドミッションポリシー

- ①豊かな感受性と思いやりの心をもっている人。
- ②人の心と行動を科学的に把握する心理学的視点を身につけ、将来の仕事に役立てたいと思っている人。
- ③人の心と社会事象の多様性に興味をもち、人と関わる活動を通して、社会貢献や自分にふさわしい活躍をしたいと考えている人。
- ④カウンセリングや心理アセスメントなどを学んで、人の心を発達・臨床心理学の視点から理解し、相談業務等の心の専門家をめざす意欲のある人。

### 2 カリキュラムポリシー

心理学科の領域

社会・健康領域（社会心理学）

臨床・発達領域（臨床心理学・発達心理学）

#### 2.1 教育課程の概要

本学科の教育課程は、基礎・教養科目および専門科目からなる。

##### (1) 基礎・教養科目

この科目区分は主に「初年次教育」の役割を担っており、心の教育、初年次導入教育、基本的能力を修得する教育、幅広い教養を培う教育、キャリア教育で構成されている。

##### (2) 専門科目

専門科目は心理学科の教育目標にそって体系化されており、「専門基礎」「専門応用」「専門発展」「心理学演習」に区分される。

- ①「専門基礎」…1年次の必修科目および選択必修科目である。心理学への関心を喚起し、2年次以降の学習への導入に関する科目を配置している。
- ②「専門応用」…2年次の必修科目および選択必修科目である。本学科の4つの教育目標（ディプロマポリシー）の実現に向け、専門化された心理学理論に関する講義や、初歩的な実習を織り交ぜた演習科目が設定されている。
- ③「専門発展」…2年次後期から4年次前期に履修する選択必修科目であり、先述の4つの教育目標をより高度に発展した次元で達成するための講義科目、演習科目、実習科目が設定されている。
- ④「心理学演習」…4年間を通して行われる少人数制のゼミナールである。本学科の4つの教育目標を学生一人一人の将来像に相応しい形で実現できるよう、段階的できめ細やかな指導を行う。

##### (3) 自由科目

自由科目には資格取得に必要な科目を配置し、卒業後のための資格取得を支援する。

## 2.2 教育課程の特色

心理学科では、心理学全般を幅広く学ぶとともに、2年次までに、「心理学的な方法論（リサーチ・メソッドおよび研究法）」、「自己と社会（集団・組織）に関する心理学的思考法」、「人間関係における文化の多様性への関心」、「人の発達および心理的な援助の理論」を習得する。この四つの心理学的な理解力および志向性を基盤として、3年次以降は段階的に「社会・健康領域（社会心理学）」ならびに「臨床・発達領域（臨床心理学・発達心理学）」に重点化した教育プログラムを実施する。

「社会・健康領域」では、社会的行動について実証的にアプローチし、それらの法則性や傾向性の解明を通して、人と社会の多様性に対処可能な柔軟で実践的な姿勢と思考力、および社会で活かせる対人スキルや対人コミュニケーション能力を身につける。「臨床・発達領域」では、自己と他者のこころのありように対する知見をもとに、人の心の発達における普遍性と個別性に関する理解を深め、他者と共感的に関わり、言語的および非言語的な相互コミュニケーションを通じた援助・支援の実践的あり方を身につける。本学科ではこうした教育課程を通じて、学生それぞれにふさわしい心理学を活かした社会人としての将来像の構築を図っている。

また、健康科学部間で、医療福祉学科、健康栄養学科、看護学科との学部共通科目等の連携をはかることにより、対人援助における専門的で包括的なヘルスケアシステムを見据えた心理学の学習が可能となる。さらに、臨床心理士養成大学院への進学を積極的にサポートしていることで、より高度な専門的職業人の育成を視野に入れた教育課程を実現している。

## 3 ディプロマポリシー

心理学科では、以下の4つの教育目標を達成することで、客観的でグローバルな視野を養い、個人と集団（社会）との多様な関係を心理学的に分析・検討することができ、実践的で豊かな関係形成能力をもった人材の養成を目標としている。

### (1) 知識・理解

心理・社会学的なデータ収集と解析方法の習得

- ①行動と文化の成り立ちについて、実証的アプローチを用いて理解する。
- ②英語、情報（ICT 活用力）、及び数量的リテラシーを修得する。

### (2) 汎用的能力

心理的または福祉的な専門援助法の習得

- ③社会に生きる人間の心の問題を深層心理学的観点から探索し、人間の多様性についての考える能力を身につける。
- ④心の健康と病理についての認識及び対人援助のあり方を探求し、洞察する能力を磨く。
- ⑤心理的または福祉的専門援助法を習得し、自らのキャリアに生かす力を培う。

### (3) 態度・志向性

コミュニケーション・人間関係形成能力の習得

- ⑥コミュニケーション力を高め、社会の中での実践的な関係形成能力（リエゾン力）や態度を身につける。
- ⑦他者と協調・協働して行動できる（チームワーク）。あるいは、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる（リーダーシップ）などのスキルや態度を向上させる。

- ⑧社会性の発達と獲得の視点から心の働きの法則性を学び、人間・文化・環境について適切な態度や志向性を獲得する。

#### **(4) 統合的な学習経験と創造的思考力**

社会（組織）人としての問題発見・解決スキルの習得

- ⑨社会の一員としての意識をもち、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動し、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与する力を培う。
- ⑩自らを律して行動し、自立して学習ができ、生涯を通して自らを高めることができる。
- ⑪自己の健康維持・増進の大切さを理解し、その方法について実践できる。
- ⑫現代社会に生きる人間としての様々な課題を見つけ、これを論理的に考察し、解決することができる力を身につける。

# 健康科学部 医療福祉学科 社会福祉専攻

## 1 アドミッションポリシー

医療福祉学科社会福祉専攻では、建学の精神である仏教精神に基づいた深い人間理解と人間尊重の精神を基礎に、児童や高齢者、あるいは心身に障がいをもつ人を対象として、女性の社会福祉専門職として社会福祉援助に必要な知識・技術を身につけることを教育理念とする。

## 2 カリキュラムポリシー

### 2.1 教育課程の概要

社会福祉専攻の教育課程は、基礎・教養と専門教育で構成され、専門教育は、専門教育（基礎）、専門演習、専門教育（基幹）、専門教育（応用）に区分されている。

#### (1) 基礎・教養科目

基礎・教養科目区分では、仏教精神に基づいた人間としての基礎的な力を涵養するとともに、生活者としての倫理観および生活者である人間理解などに努める。そのため、仏教精神とともに学士力の養成を目指し、論理的思考力、創造的能力、生涯学習能力などを涵養するキャリア教育の基礎科目で構成しつつ、社会福祉の意義と価値についても理解する。

#### (2) 専門基礎科目

専門基礎科目では、現代社会において医療と福祉の連携の現状、今後の展開について習得することを目的とする。具体的には、現代社会の社会問題・生活問題を理解するとともに、社会福祉・医療の基本的な構造や機能、人間の行動と社会システムに関係する知見を習得し、社会福祉の意義について理解する。また、女性としての社会福祉専門職観・対人援助の知識・技術の習得し、本学の特徴でもある仏教精神に基づいた他者への「思いやりの心」（当事者視点）や女性の社会福祉専門職としてのあり方をより強く意識した対人援助の学習に重点を置いている。

#### (3) 専門科目

この科目区分では、現代社会の多様な事象に対して社会福祉的視点から対人相談・支援が行える知識・技術を習得し、現代社会の社会問題・生活問題に焦点をあて、個人や家族への支援活動を中心とするミクロレベルから、地域を対象とするメゾレベル、制度や政策を考察するマクロレベルに至る多様なレベルから理論的、実践的な探求を行い、福祉専門職としての相談・支援が行える知識・技術を習得することを目的とする。

また、社会福祉の援助方法を理解することに加えて、複雑多様化した現代社会で生活問題に直面し、精神的な生活課題を抱えるに至った人々を具体的に支援することが可能になるよう知識や技術を学修し、社会福祉士・精神保健福祉士の資格を取得する。

#### (4) 社会福祉・精神保健福祉実習科目

この科目区分では、3年生の社会福祉士実習、4年生の精神保健福祉士実習に必要な実習前教育、実習中指導、実習後指導等に必要な演習、講義科目等である。本学の特徴でもある社会福祉士通年実習では、長期にわたる実習施設での学習内容が適切にフィードバックできるように指導し、社会

福祉専門職としての知識・技術を確実に習得する。4年生での精神保健福祉士実習では、医療機関等の実習を通じて社会福祉支援における他機関・他専門職との連携の重要性についても適確に理解し、必要な対人援助の知識・技術を習得できるように指導する。

## 2.2 教育課程の特色

- (1) 仏教精神に基づいた社会福祉専門職の養成を行うため、本学の校訓である「真実心」への理解や社会福祉専門職の倫理と価値を理解することにより、医療と福祉の連携の重要性と社会福祉専門職として必要な知識と技術を習得する。
- (2) 学士力を身につけ社会人としての確かな社会人基礎能力を有する社会福祉専門職を目指す。
- (3) 保健、医療、福祉の現場において必要とされる社会福祉専門職に必要な知識・技術を習得することができる。
  - ①地域における社会福祉サービスの提供者の役割を理解する。
  - ②国内外の保健・医療・福祉環境に対応し、求められる役割に対応できる能力を養う。
  - ③他学科との連携（看護師・管理栄養士・言語聴覚士との協働）によって、創造的な保健・医療・福祉サービスを構築することが出来る。

## 3 ディプロマポリシー

仏教精神と本学の建学の精神である「真実心=思いやりの心」に基づいた他者と共生できる精神性を養うとともに、地域における社会福祉サービスの提供者としての専門性と、社会福祉の価値と倫理を習得する女性の社会福祉専門職を養成することを教育目標とする。

### (1) 知識・理解

- ①社会福祉専門職として社会福祉関連科目に基づいた知識・技術を段階的に学び、系統的に理解する。
- ②社会福祉専門職として必要な社会福祉の価値と倫理を体得し、積極的に行動する。

### (2) 汎用的能力

- ①社会福祉を必要とする人たちとその社会背景を分析し、個別・集団の問題解決を論理的に行うことができる。
- ②社会福祉専門職に必要な知識・技術を活用し、社会福祉を必要とする人々を主体とした社会福祉実践ができる。

### (3) 態度・志向性

- ①仏教精神に基づく女性の社会福祉専門職としての思考・態度を形成することができる。
- ②「真実心=思いやりの心」による社会福祉専門職として、社会福祉サービスを必要とする人々との共生ができる能力を養う。
- ③社会人として必要なコミュニケーション能力や創造的思考力、問題発見解決力などの基礎的能力を養う。

### (4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- ①地域における保健・医療・福祉の連携の重要性を理解し、社会福祉専門職の役割を果たすことができる。
- ②女性の社会福祉専門職としての意義と価値を理解し、今後の社会福祉サービスにおいて中心

的役割を担う意識を高める。

# 健康科学部 医療福祉学科 言語聴覚専攻

## 1 アドミッションポリシー

高齢者社会が進むなかで、脳血管障害や神経変性疾患に罹患する人々が急速に増加している。脳梗塞や脳出血に代表される脳血管障害では、しばしば、言葉の話したり理解することが困難となる失語症、唇や舌の動きが障害されて不明瞭な発音となる構音障害、食べ物がうまく飲み込めなくなる嚥下障害などを発症する。さらに注意や記憶、理解、判断力、遂行機能の低下する認知機能障害をきたすことが稀ではない。脳血管障害のみならず、アルツハイマー病に代表される神経変性疾患でも、認知機能障害が重度になる。もはや自立した生活を営めない認知症をきたす。構音障害や嚥下障害をきたしやすい神経筋疾患の患者も依然として多い。一方、少子化のなかで、言葉の発達や聞こえに障がいを持って生まれたり、発達上のハンディキャップを持つ子供たちへの専門家の支援も喫緊の問題である。本学の建学精神（仏教精神による思いやりの心を持ち、社会に貢献できる女性の育成）に基づき、これらの子ども達の発達を援助し、障がいのある人々の機能回復・機能獲得をはかり、コミュニケーション能力の向上と個々の状態に応じた社会参加を支援する言語聴覚士を育成することを本専攻は目標とする。そのため本専攻では、これらの目標を達成するための専門的技術を習得し、社会で言語聴覚士としての役割と責任を果たしうるために、誠実に努力する姿勢を持つ入学者を求める。

## 2 カリキュラムポリシー

### 2.1 教育課程の概要

本専攻の教育課程は、基礎・教養科目、共通専門科目、専門基礎科目、専門科目からなり、教育目標に準拠した言語聴覚士として修得すべき能力を得るよう体系化されている。

#### (1) 基礎・教養科目

この科目区分は主に「初年次教育」の役割を担い、こころの教育、基本的能力を養成する教育、学習方法の修得を目的とする教育、心身の健康の維持・増進についての教育、及び キャリア教育の基礎で構成されている。

#### (2) 共通専門科目

この科目区分は、学部共通科目と学科共通科目に分かれる。人間・社会・環境への幅広い理解と、その中で自らの果たすべき役割を認識できるように、これらの科目が設けられた。

#### (3) 専門基礎科目

この科目区分は、「人間と社会」、「医療と福祉」に分かれる。言語聴覚専門分野として習得し、人間をトータルに理解するための科目を、1年生次から2年生次で修得できるよう配置している。

「人間と社会」では、人間として心身ともに健康な暮らしについて、個人および集団の視点を踏まえて、統合的に人間を捉えられることを目指す。

「医療と社会」では、社会保障制度や法規を学び、医療が社会とどのように繋がっているのかを学ぶことを目指す。



## (4) 専門科目

この科目区分は、「言語聴覚療法の基礎」、「言語聴覚療法の展開」、「言語聴覚療法の応用」、および「言語聴覚療法の発展」に分かれる。

「言語聴覚療法の基礎」では、臨床基礎医学、臨床医学総論、リハビリテーション概論・医学、音声・言語・聴覚医学（神経系の構造、機能及び病態を含む）、言語発達学、生涯発達心理学、認知・学習心理学、臨床心理学、言語聴覚障害学概論を配置し、臨床医学と言語聴覚障害学の基礎を学ぶことを目指している。

「言語聴覚療法の展開」では、基礎知識の上にさらにさまざまな分野の専門的知識を学ぶため、臨床医学、臨床歯科医学・口腔外科学や心理学測定法、音響学、音声学、言語学、失語症学、高次脳機能障害学、言語発達障害学、構音障害学、摂食嚥下障害学、聴覚障害学が配置されている。

「言語聴覚療法の応用」では、基礎と展開で学んだ知識を演習で実際に使うことを学ぶことを目指している。従って配置される科目は、言語聴覚障害診断学演習、失語症学演習、高次脳機能障害学演習、言語発達障害学演習、構音障害学演習、聴覚障害学演習、画像診断学演習、言語聴覚障害学総合演習と、すべての科目が演習の形態で行われる。

「言語聴覚障害学の発展」では、臨床実習（評価実習・総合実習）、各種特論、卒業研究、専門ゼミが配置され、言語聴覚士として社会に出ていくために必要な知識と力を獲得することを目指している。

## 2.2 教育課程の特色

- ①言語聴覚士国家試験受験資格を取得するための指定科目を配置することによって、専門職として活躍できる人材育成のためのカリキュラムとする。
- ②総合病院やリハビリテーション病院などの医療分野や介護老人保健施設や訪問リハビリテーション事業所などの保健分野、特別養護老人ホームや障害児施設などの福祉分野、さらに療育施設や特別支援学校や学級などの教育分野などと多岐にわたる領域において、実践力・応用力の養成に努める。
- ③礼儀をわきまえ、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を持った社会人基礎力の養成に努め、その上で、言語聴覚の分野で活躍できる資格・スキルを有した優秀な人材を養成する。

## 3 ディプロマポリシー

人は生まれてから死ぬまで、生涯発達を続けるといわれている。しかし、言葉の発達や聞こえに障がいをもって生まれ、そのハンディキャップのために専門家の支援を必要とする子ども達は少なくない。また、高齢化が進む現代社会では、脳血管障害、アルツハイマー病などの神経変性疾患、筋委縮性側索硬化症や筋ジストロフィーなどの神経筋疾患に罹患し、言葉話し理解することが困難な人、認知障害をきたした人、唇や舌が麻痺して話しづらい人、聞こえにくい人、食べ物がうまく飲み込めない人が加速度的に増加している。これらのハンディキャップをもった子ども達の人間の成長を援助し、障がいのある人々の機能の回復・獲得をはかり、個々の状態に応じたコミュニケーション能力の向上と社会参加を支援する言語聴覚士の育成を目的としている。

### (1) 知識・理解

- ①言語聴覚士として言語聴覚学に基づいた知識・技術を段階的に学び系統的に理解する。
- ②言語聴覚士として必要な言語聴覚学の隣接学問に関する知識を学び統合的に理解する。

## **(2) 汎用的能力**

- ①対象者とその背景の情報を分析し、対象者個人への支援とともに、対象者を支える社会の問題解決を理論的に行うことができる。
- ②言語聴覚学的支援の知識技術を再統合し、対象者を主体としたアプローチが実践できる。

## **(3) 態度・志向性**

- ①幅広い教養と仏教精神による思いやりの心を持ち、言語聴覚学という専門性に基づいた高いコミュニケーション能力を習得する。
- ②言語、音声、聴覚、コミュニケーション、摂食・嚥下などに障がいのある人たちが、豊かで質の高い生活を送れるようにするため、障がいについての専門知識や訓練・指導を行うための専門性の高いスキルを習得する。

## **(4) 統合的な学習経験と創造的思考力**

- ①言語聴覚士として、医療、介護、福祉、療育・教育の現場で言語聴覚士としての専門知識・スキルに基づいて、障がいを持つ人たちの多様なニーズに対応できる実践力を習得する。
- ②言語聴覚士は障がいを持つ人たちを全人的に治療していく必要があり、言語聴覚療法領域のみに留まらず、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、栄養士、臨床心理士、教師などとのチームワークが不可欠となる。そのため、チームの一員として、障がいのある人たちを支えるという実践力を身につける。

# こども教育学部 こども教育学科

## 1 アドミッションポリシー

こども教育学科は、仏教精神による慈しみの心をもってこどもと向き合い、こどもを深く理解してその育ちを助けることのできる教員・保育者の養成を目的としている。そのため、本学科では以下のような学生を求めている。

- 1) 将来保育士や幼稚園教諭、小学校教諭になることを希望し、意欲をもって教育・保育を学ぼうとする人
- 2) 自分を高めるために常に学び続けることのできる人。
- 3) 積極的にこどもと関わり、こどもから学ぼうとする人。
- 4) 必要に応じて他者と協同作業ができる人
- 5) 自らリーダーシップを発揮できるとともに、他者のリーダーシップにも積極的に協力できる人

## 2 カリキュラムポリシー

### 2.1 教育課程の概要

本学科の教育課程は、「基礎・教養科目」と「専門科目」からなる。専門科目はさらに「専門基礎科目」（教育・保育の基礎理論）、「専門基幹科目」（幼児・初等教育の基幹科目）と「専門発展科目」（幼児教育保育関連、初等教育関連、実習・演習）に分かれる。

#### (1) 基礎・教養科目

この科目は、建学の精神に関わる科目、よき市民・国民育成のための科目、他の科目を学ぶ上でツールとなる科目、コミュニケーション力育成のための科目、スポーツ・健康系科目、更にリベラルアーツを広く含んで開講する。

#### (2) 専門科目

専門科目には、教員・保育者を養成するという本学科の目的のゆえに、免許・資格取得に関する法令で修得を要求されている科目が多い。それに加えて、学生の学びを深め、優れた教員・保育者を育てる観点から本学科が独自に設定する科目も多く開設されている。専門科目は更に、「専門基礎科目」「専門基幹科目」「専門発展科目」に区分される。

##### ① 専門基礎科目

本学科での学びの基礎をつくる科目群である。最初にこどもの発達と保育・教育の全体を俯瞰し、本学での学びの全体を大きく把握するための「こども教育概論」（本学科独自科目）を置く。更に、教育学・心理学の基礎を学ぶ「教育原理」、「発達心理学」、「教職論」「保育者論」、本学科の初年次教育である「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」、「子ども教育基礎演習 A・B」、本学建学の精神とも関わり、こどもの権利を考える上でも重要な「人権教育」が置かれている。

##### ② 専門基幹科目

専門基礎科目に続き、教育の基幹理論（「教育の制度・運営」、仏教教育論）および幼児・

初等教育の基礎を学ぶための科目群（「保育内容総論」「保育課程論」「保育方法論」などの幼児教育・保育系理論科目および「国語」、「算数」、「音楽Ⅰ～Ⅳ」、「図画工作Ⅰ」などの教科科目）から構成される。

### ③ 専門発展科目

「幼児教育・保育関係」、「初等教育関係」及び「実習・演習」に区分される。

「幼児教育・保育関係」と「初等教育関係」には、「保育内容Ⅰ～Ⅴ」や各教科の指導法、福祉関係科目など、免許・資格を取得するうえで必要となる科目に加えて、保育英語・小学校英語習得のための諸科目、「算数演習」、「理科演習(実験)」、「総合的な学習の指導法」、「保育内容研究」など、学生がよりよき教員・保育者をめざして学びを深めるために、本学科が独自に設定する科目が置かれている。

「実習・演習」では、免許資格ごとに要求される各種の「実習」と「実習事前・事後指導」、学生の専攻するコースと学習段階によって配当され、学生の専門性を形作り、研究的な学びを促進する各種の「ゼミ」や「演習」がある。

実習に関し、本学科の特色として、専攻するコースに関わらず、すべての学生が幼稚園での1週間の観察実習を必ず行うことになっている。それ以外は、小学校教諭免許、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のために必要なそれぞれの「実習」および「実習事前・事後指導」を、取得希望に応じて修得する。

「演習」・「ゼミ」には、2年次の「プレゼミⅠ・Ⅱ」、3年次の「専門ゼミⅠ・Ⅱ」、4年次の「卒論・卒研ゼミⅠ・Ⅱ」、「卒業論文」、「卒業研究」に加えて、免許・資格取得のための総まとめである「教職実践演習」、「保育実践演習」がある。

## 2.2 教育課程の特色

- (1) 建学の精神を学ぶための基礎理論として「仏教の人間観Ⅰ・Ⅱ」を学ぶと共に、様々な学校行事を通じて仏教精神を体得し、これを慈しみ思いやる心として実際の保育・教育に活かすことに努める。更に、仏教的立場からの保育・教育を総括する科目として「仏教教育論」を置く。
- (2) こどもの教育全般に対する広い視野を獲得することに努め、1年次前期から「こども教育概論」を置き、教育全般への見通しを持ったうえで、個々の専門科目を学ぶ。また、すべての教育の原型として幼児教育を重視し、初等教育を目指す学生にも1週間の幼稚園観察実習を義務付ける。
- (3) 併設幼稚園・小学校の協力を得て本学科独自科目である「こども教育基礎演習A・B」を開講し、教育・保育現場を見てすぐに教室でその背景を理論的に学び、あるいは教室で理論として学んだことをすぐに実践の中で確認するようにして、理論と実践を架橋する学習を可能とする。

## 3 ディプロマポリシー

本学科は小学校・幼稚園教諭ならびに保育士の養成を目的としている。そのため、卒業時には、免許・資格取得者として現場に立つだけの教育・保育についての視野、思考力と判断力、更には的確な指導力を体得し、主体的に行動できるようになっていることが求められる。しかしまた同時に、教員・保育者としてはあくまでまだ駆け出しであり、これを出発点として、最初は先輩教員・保育者の指導・アドバイスを受けながら、徐々に自らの経験と努力および研究を通じて、自分で成長していかなくてはならない。ディプロマポリシーとして以下に示す項目及び内容は、とりあえずは免許・資格取得者として現場に立つ準備が完了しているという意味であるとともに、今後自らが教員・保育者として成長していくための核となる部分が用意できたという意味でもある。

## **(1) 知識・理解**

- ①教員・保育者に求められる教養が身に付いている。
- ②教員・保育者に必要な専門的知識や教育・保育技術が身に付いていて、今日的な課題（保育・小学校英語や ICT 機器の利用など）にも対応可能である。

## **(2) 汎用的能力**

- ①育ちゆく幼い者への共感と暖かな眼をもって子どもと向き合い、一人ひとりを大切にその育ちを支えることができるとともに、問題がある場合には素早く発見し、的確な解決を図ることができる。
- ②教員・保育者に必要なコミュニケーション能力を備えていて、子どもと子ども、子どもと教師、子どもと地域、更には保護者と保護者を結びつけることができる。

## **(3) 態度・志向性**

- ①建学の精神である「真実心」を体得し、これを「思いやりの心」、「向上心」、「感謝の心」として教育実践に活かすことができる。
- ②教職に対する責任感と情熱をもち、自らも生涯学び続け、成長し続けようという意欲をもっている。

## **(4) 統合的な学習経験と創造的思考力**

- ①教員・保育者としての教養と専門知識・技術を身に付けていて、これらを一人ひとりの子どもの育ちと学びの支援に統合的に活用できる。
- ②教育・保育上の一つひとつの問題や課題を、子どもや自身の成長の機会と捉え、教員・保育者として培ってきたすべての力を働かせ、主体的・創造的に解決を図ることができる。

# 人文学部 文学科

## 1 アドミッションポリシー

文学科では日本語や英語に関する専門的学修に強い意欲を持つと同時に、他者や異文化と共生できる柔軟で温かな人間性を持ち、自らが学んだ専門的知識を社会に積極的に還元しようとする入学生を幅広く受け入れる。

## 2 カリキュラムポリシー

### 2.1 文学科の専攻及び領域

#### (1) 日本語日本文学専攻

- ① 日本語学領域
- ② 日本文学領域
- ③ 書誌文化学領域
- ④ 京都歴史文化学領域

#### (2) 国際英語専攻

- ① 英語コミュニケーション領域
- ② 児童英語領域
- ③ 異文化理解・観光文化領域

### 2.2 教育課程の概要と特色

#### 2.2.1 教育課程の概要

本学科の教育課程は、基礎・教養科目、専門教育科目、専門関連科目、自由科目からなる。

#### (1) 基礎・教養科目

この科目区分は主に「初年次教育」の役割を担い、こころの教育、基本的能力を養成する教育、学習方法の修得を目的とする教育、心身の健康の維持・増進についての教育、及びキャリア教育の基礎で構成されている。

#### (2) 専門教育科目

両専攻は以下の4段階の枠組を共有し、その枠組に基づきつつそれぞれの専攻の専門性を段階的に高めていくように、各科目が配置されている。

- ① Orientation 科目……1年次、2年次の基礎的科目で、基礎講義科目と基礎セミナーに分かれる。
- ② Skill 科目……2年次、3年次の具体的実践的科目で、語学系の基礎力育成科目とスキル系の基礎学習科目に分かれる。
- ③ Study 科目……3年次、4年次の専門科目で、実践的な専門学習科目と講義主体の専門講義

科目に分かれる。

- ④ Graduation 科目……卒業論文に集約される3年次、4年次の科目で、専門セミナーと卒業論文・卒業研究作成に分かれる。

ただし、国際英語専攻では、英語力強化のために、Skill 科目に相当する英語強化科目を1年次から4年次まで体系的に配置し、Study 科目と併せて英語の運用力の段階的向上を目指す。

### (3) 専門関連科目

専門関連科目は選択科目であり、学生が自分の興味に合わせて履修できるよう、人文学とその周辺の幅広い領域の科目群により構成されている。

### (4) 自由科目

自由科目には資格取得に必要な科目が配置されており、卒業後のための資格取得を支援する。

## 2.2.2 教育課程の特色

- ① 本学科の教育課程の中核は、専攻ごとの専門的知識の修得に置かれている。
- ② しかしながら、両専攻の学習内容がそれぞれの専門分野に限定されないように、両専攻の科目を相互的に活用する科目群を明示し、重層的な学習機会を提供している。
- ③ 基礎講義科目に「言語とコミュニケーション」、「文化と文化交流」、「ことばと文学」という両専攻の教員が協力して開講する入門的科目を置き、必修としている。
- ④ 手厚い指導・支援体制によって個別的教育を徹底する。
- ⑤ 卒業後の進路選択を視野に入れた資格取得のための科目を自由科目に配置し、積極的に支援する。

## 3 ディプロマポリシー

本学科は日本語及び英語圏の言語・文学・文化に対する広い視野の獲得、思考力・判断力と的確な言語運用力の育成を通して、他者と共生する力を備えた人材を育成することを教育目標とする。これを次の具体的な目標を設定して達成する。

### (1) 知識・理解

#### <日本語日本文学専攻>

- ① 日本の言語・文学・歴史文化についての基本的・専門的な知識を体系的に修得する。
- ② 社会人に相応しい日本語運用能力を修得して、情報を的確に理解する能力と日本語コミュニケーション力を身につける。

#### <国際英語専攻>

- ① 英語文化圏の歴史、文化、文学についての基本的・専門的な知識を体系的に修得する。
- ② 児童英語教育などの英語教育の教授法を修得する。
- ③ 国際的活動を視野に入れた英語の実践的運用力を練磨する。

### (2) 汎用的能力

- ① 基本的なリテラシー能力（話す・聞く・読む・書く・ICT活用力など）を修得する。
- ② 自身の考えや意見を、日本語や英語などで的確に表現し、他者に伝える力を修得する。

### (3) 態度・志向性

- ① 文学や歴史文化に対する探求を通じて、自己と他者への理解を深め、豊かな人間性と市民性と、他者と協調する姿勢を身につける。
- ② 言語文化にかかわる多様な事象に興味と関心を持ち、幅広い教養を培う。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学、芸術、スポーツなどの学習・実践を通じて、幅広い知識・教養を修得するとともに、健全な肉体・精神の獲得・維持につとめる。

#### **(4) 統合的な学習経験と創造的思考力**

- ① 自らの目標を設定し、その実現に向かって計画的に行動・努力する姿勢を身につける。
- ② 特に言語による情報を適切に取り扱う能力を養い、創造的・論理的な思考力、問題発見・解決力を身につける。



# 人文学部 心理学科

## 1 アドミッションポリシー

心理学科では人の心を深く理解し、他者と自分を共に活かしていきたいという志を持つ女子学生を広く受け入れる。入学後は体系的に組み立てられている基礎教育や基礎心理学、さらには少人数の演習などを通じて人が本来もつ「ゆたかな心」を行動に具体化し、相互作用の中から自らに薫習して他者との間に建設的な関係を結ぶ力を涵養する。その後、社会心理学、発達心理学、臨床心理学の3領域に分かれた専門教育を通じて、社会人としての教養と品格を磨く。

## 2 カリキュラムポリシー

### 2.1 心理学科のコース及び領域

#### (1) 心理学コース

- ① 社会心理学領域
- ② 発達心理学領域

#### (2) 臨床心理学コース

- ① 臨床心理学領域

### 2.2 教育課程の概要と特色

#### 2.2.1 教育課程の概要

本学科の教育課程は、基礎・教養科目、専門基幹科目、専門関連科目、自由科目からなる。

#### (1) 基礎・教養科目

この科目区分は主に「初年次教育」の役割を担い、こころの教育、基本的能力を養成する教育、学習方法の修得を目的とする教育、心身の健康の維持・増進についての教育、及びキャリア教育の基礎で構成されている。

#### (2) 専門基幹科目

専門基幹科目は心理学科が目指す教育課程の骨子である。研究法を除き、すべてコース必修科目である。

専門基幹科目は、さらに「基礎」「応用」「演習」「研究法」に区分される。

- ① 「基礎」……1年次の必修科目であり、心理学への入口として、知的好奇心を喚起し2年次以降の展望を抱けるよう内容が工夫されている。
- ② 「応用」……それぞれの専門性を体系的に高めるための講義が設定されている。
- ③ 「演習」……4年間を通して行われ、きめ細やかな指導を実現するとともに、論理的思考力を養い主体的に学ぶ姿勢を身につけるよう配慮されている。
- ④ 「研究法」……データの扱いや研究の手法を学ぶとともに、社会での実践的な知を重視した科目が配置されている。

### (3) 専門関連科目

専門関連科目は選択科目であり、学生が自分の興味に合わせて履修できるよう、心理学とその周辺の幅広い領域の科目群により構成されている。

### (4) 自由科目

自由科目には資格取得に必要な科目を配置し、卒業後のための資格取得を支援する。

## 2.2.2 教育課程の特色

- ① 専門基幹科目における1年次の心理学の学習への導入から3年次以降の主体的学習へのスムーズな移行を実現するために必要十分な科目を設置している。
- ② 専門基幹科目における心理学の研究法、演習を組み合わせた体験的学習の体系化を行っている。
- ③ 専門領域(社会心理学・発達心理学・臨床心理学)でのより特化した実習科目の充実を図っている。
- ④ 関連科目における心理学の基礎領域から応用領域までの幅広い学習が可能である。
- ⑤ グローバル化に対応して、2年次から4年次まで英語文献講読を開講している。

## 3 ディプロマポリシー

本学科は建学の精神である仏教的考え方と現代精神との融合を図り、慈愛と慈悲の心で人間関係を作り上げることができる人材の育成をその教育目標とする。これを、次の具体的な目標を設定して達成する。

### (1) 知識・理解

#### <心理学コース>

- ① 社会性の発達と獲得の視点から心の働きの法則性を学び、家族・友人・組織などの人間環境や様々な文化環境についての理解を深める。
- ② 人の行動と文化の成り立ちについて、実証的アプローチを用いて理解する。

#### <臨床心理学コース>

- ① 社会に生きる人間の心の問題を深層心理学的観点から探索し、人間の多様性についての理解を深める。
- ② 心の健康と病理についての認識及び対人援助のあり方を探求し、理解する。

### (2) 汎用的能力

- ① 読み・書き・聞き・話すのコミュニケーション力を高め、人を見て学び、自分で実行し、結果を振り返って社会的関係に活かす能力(リエゾンする力)を身につける。
- ② 社会の中での実践的な関係形成能力(リエゾンする力)を培う。
- ③ 英語、情報(ICT活用力)、及び数量的リテラシーを修得する。

### (3) 態度・志向性

- ① 社会の一員としての意識をもち、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動し、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。
- ② 自らを律して行動し、自立して学習ができ、生涯を通して自らを高めることができる。

- ③ 他者と協調・協働して行動できる。また他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。(チームワーク・リーダーシップ)
- ④ 自己の健康維持・増進の大切さを理解し、その方法についての知識を修得している。

#### **(4) 統合的な学習経験と創造的思考力**

- ① 様々な現象の因果関係を見つけ、多様な価値観を取り込んで自己吟味し、新しい視点を創造する力を身につける。
- ② 現代社会に生きる人間としての様々な課題を見つけ、これを論理的に考察し、解決することができる力を身につける。

## キャリア形成学部 キャリア形成学科（平成 25 年度以前入学生対象）

### 1 アドミッションポリシー

キャリア形成学科では、大学での教育・指導の中で学習分野と自己の将来を探究し、本学科の教育目標である「生きる力を伴った総合的社会人基礎力」の修得を目指そうとする意欲を持った学生を受け入れる。

生き方（＝キャリア）を探究する中で生きる力を修得する過程が「キャリア形成」であり、学科名の由来となっている。この能力を、具体的な職を想定した6つの分野（教育、社会福祉、ICTビジネス、観光、住居・インテリア、ファッション・ブライダル）で学ぶことができるようになっている。また、本学科には「社会福祉士養成課程」が置かれており、この課程で所定の単位を修得すると、卒業時に「社会福祉士国家試験受験資格」を取得することができる。上記6つの分野に力点を置きつつ、大学において教育を受けようとする者の多様な要求に応える。

### 2 カリキュラムポリシー

#### 2.1 教育課程の概要

本学科は、次頁の図に示すように、基礎・基幹・応用の3段階の教育で構成される。

基礎教育では、「基礎的能力」を養成する。その内容は、こころの教育、基本的能力を養成する教育、学習方法の修得を目的とする教育、心身の健康の維持・増進についての教育、及びキャリア教育の基礎で構成される。

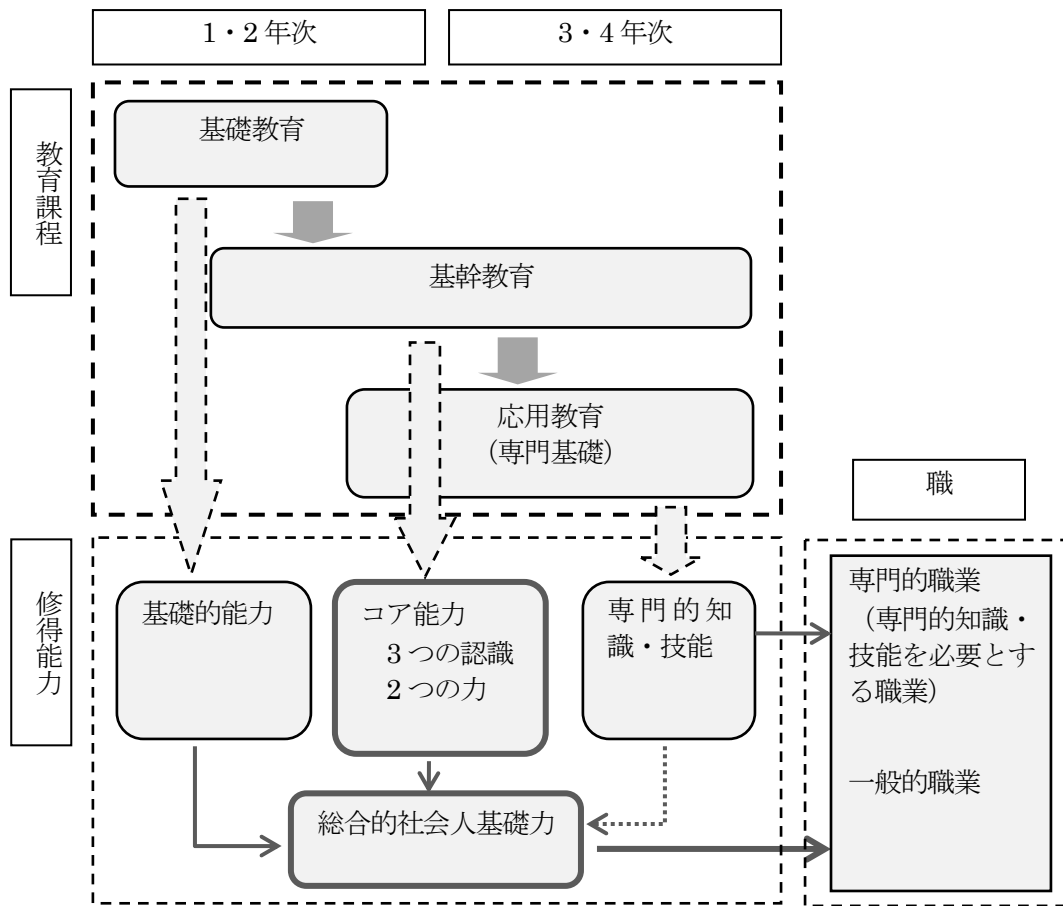
基幹教育では、「3つの認識」（知識と理解）と「2つの力」（力）の教育に基づく「コア能力（中核となる能力）」を養成する。「3つの認識」とは、人間存在の認識、社会問題の認識、及び国際情勢の認識である。グローバル化する現代社会において、社会人として必要とされる基本知識・理解は、この3つの「認識」に集約される。また、「2つの力」とは、問題発見・解決力、及びコミュニケーション力に集約されるものであり、働く上でまた社会生活を営む上で最も強く求められる力（能力）である。基礎教育で養成される「基礎的能力」と基幹教育で養成される「コア能力」とを総合することによって、「総合的社会人基礎力」が修得される。

応用教育では、将来の進路などとして関心のある具体的な分野において応用力を高め、「総合的社会人基礎力」を高度に修得することを目指して応用的・実践的に学ぶ。応用教育は、教育、社会福祉、ICTビジネス、観光、住居・インテリア、及びファッション・ブライダルの6つの分野で構成される。

#### 2.2 教育課程の特色

各教育の学習期間は前述した通り「基礎教育→基幹教育→応用教育」の流れであるが、その期間は一部重なる。個々の学生は、それぞれの学習期間の開始と終了の時期を、一定の範囲内で自由に選択することによって柔軟に設定することができる。その選択にあたって学生は、教員による学生の学習状況・能力・希望の把握を基に、学生と教員間の個別相談によって適切に指導を受けることができる。これが本学部・学科の特色でもある。また、これらの教育は並行して履修することも可能とする。その結果として、各教育の履修ウェイトは学生によって異なることになる。ある学生は基幹教育の科目の学習を中心に教養を身につけ、またある学生は比較的早くから応用分野（専門基礎）の教育に入ることによって専門的知識・技能・技術を修得するというように、個々の学生の多様な

目的と希望に対応する。



### 3 ディプロマポリシー

本学科の教育目標は、総合的社会人基礎力を備えていること、または、加えて何らかの専門分野の素養として、その基礎を修得していることである。これを、次の具体的な目標を設定して達成する。

#### (5) 知識・理解

- ① 「人間」「社会」「国際」の3分野において広く学習し、その基礎を修得している。
- ② 3つの認識、「人間存在の認識」「社会問題の認識」「国際情勢の認識」を深めている。

#### (6) 汎用的能力

- ① 2つの力、「コミュニケーション能力」「問題発見・解決力」の基礎及び応用について十分に修得している。
- ② ICT（情報通信技術活用能力を修得している。
- ③ 基礎的な英語力を修得している。

#### (7) 態度・志向性

- ① 就労について十分に理解し、意欲を持っている。
- ② 市民として高い倫理観を有し、積極的に社会にかかわろうとする市民性意識を有している。

- ③ 自立学習の意欲を持ち、その方法を修得している。
- ④ 自己の健康維持・増進の大切さを理解し、その方法についての知識を有している。

#### **(8) 統合的な学習経験と創造的思考力**

- ① ゼミにおいて、PBL（問題解決型授業：Problem Based Learning）による総合的な学習を履修している。
- ② 問題の解決などにおいて創造的思考力を修得している